

巴形銅器・金属製品

弥生時代後期

朝日遺跡からは、銅鐸や巴形銅器以外にもさまざまな青銅製品が出土している。その種類・量とも東海地方の弥生時代集落のなかで際立っている。



巴形銅器
表面



巴形銅器 裏面

銅鏃



朝日遺跡の金属器でもっとも点数が多いのが銅鏃である。有茎鏃が主で、身の形はバリエーションが多い。

破鏡



現存長 4.6cm 虺龍文鏡。復元径は 7.4cm、外区を中心とした破鏡である。破断面はよく研磨され、2つの紐孔が穿たれており、垂飾として利用されていたものである。

筒形銅製品



円形の平坦面をもつ筒形の青銅器。先端に孔が穿たれていることから、垂飾として使用されたとみられる。

青銅器鑄造関連資料



朝日遺跡では、鑄型の外枠の可能性のある焼けた土の塊、溶けた銅の素材が固まった銅滴がみつかり、銅鐸など青銅器の鑄造が行われていたとみられるが、まだ決定的な証拠は発見されていない。